2015　歯科衛生士会　講演

九州歯科大学歯学部口腔保健学科　口腔機能支援学講座　教授　中道敦子

テーマ：歯科専門職としての研究マインドの辿り着くところ

概要：

歯科衛生士は、「保健所での歯科疾患の予防業務」を目的として誕生した専門職です。しかしその後、我が国の疾病構造により、当初の役割から逸れて歯科医療を支える立場を担って来ました。私は「歯科診療の補助」業務が追加された時期に生まれ、歯科衛生士免許取得後に勤務した医学部附属病院歯科口腔外科で、26 年もの長い間、歯科診療の補助業務と周術期口腔ケアを担当しまして参りました。幸運にも、歯科口腔外科では周術期の口腔ケアを、歯科衛生士に専門職として一任して頂き、果たして自己の技術が本当に有効なのかを確認しようと考えました。これが、臨床研究のスタートでした。研究は技術の科学的な裏付けとなり、且つ課題を明確にします。私は、自律した専門職として自らの業務に責任を負うべきであるという思いで、身の丈の研究を継続し、現在の立場に辿り着いたと振り返ります。今回は、身の回りの些細な関心事の連鎖の行く末としてご報告いたします。

2016年合同講演会

久留米大学病院　歯科口腔医療センター　陶山日出美

テーマ：口腔外科技工と発表の方法

従来歯科技工物に要求される審美,衛生,機能の回復は重要な要素ですがそれらは本来,天然歯が持っている機能や性質であり,その回復が補綴物には求められています.また,歯科補綴の目的は器質的欠損を補う事が主となります.

一方,病院歯科技工業務には前述とは異なる要求もあります.器質的欠損の無い症例で,機能的障害の回復,治療を目的とする装置製作も含まれ,本分野は医療技工,病院歯科技工,口腔外科技工等とも言われ,治療装置系技工と補綴装置系技工に大別する事ができます.器質的欠損の回復である歯科技工と機能回復または機能補助を目的とする本分野は異なる位置にあると考えられ,補綴系技工,治療系技工の製作には現在,言語聴覚士,義眼師,義肢装具士など,多くの職種がかかわっている症例もあります.装置製作においては他職種の職域にもかかわる問題もあり,関係職種間での患者に対する装置の慎重な適応判断,見解が必要ですし,チーム医療においては,患者にかかわる他医療職との情報の共有は必須となります.本分野は口腔外科が腫瘍切除などで術後性障害を後遺した患者の総合的治療の一環としての治療とともに進歩してきた分野ですので本日は本分野を口腔外科技工としてお話を致します.

久留米大学病院での手術後の装置として硬口蓋部補綴,軟口蓋部補綴等の症例を供覧し,舌運動の障害を後遺された患者に対する補助装置の説明,顎骨骨折への装置製作過程,その他について学会発表した 12 編のなかから抜粋した内容をご報告いたします.学会で発表した実例でお示しいたしますので,発表方法のご参考になれば幸いと思います.

発表には文書(論文)発表,口演発表,ポスター発表等があります。そして発表の場として今回のような講演会や研究会、学会等の形態があり,それぞれに発表形式の指定があります. 発表は,研究内容などの説明ですから,伝える相手に理解して頂く事が大切になります.そのため,発表の場は異なっても発表形式や順序は,概ね発表内容の概略,問題点等の提示,緒言から始まり内容説明,考察,まとめとなります.それを指定された時間内で発表します.また,質疑応答も3~5分あり学会発表などでは1演題について発表質疑応答を含めて10~15分となります.予め PC で写真 10 枚を作製し,表,図,写真の説明をします.発表に際しては必要十分な説明をするために発表原稿を作製します.個人差はありますが1分間に300分字を読む早さで計算すると8分の発表では2400文字の原稿にまとめる必要があります.発表後に論文を執筆する際には,発表原稿に口演出来なかった部分等も加筆し,引用文献を追加する事により完成します.発表は論文にして完結します.皆様も是非ご発表された後は論文にされてください.